

小原商工会 商業活性化計画

小原商工会

平成26年度～平成28年度

目次

- 1 申請者の概要
- 2 活性化計画（第1期）の評価
- 3 小原地区の概況と課題
- 4 活性化計画終了後による今後の計画策定
- 5 豊田市役所小原支所及び小原観光協会との連携による事業推進体制
- 6 活性化の基本方針
- 7 事業計画及び予算計画

1. 申請者の概要

| | | | |
|-------------------|----------------------|------------------|-------------------|
| ①事業実施者名称 | 小原商工会 | | |
| ②事務所等住所 | 愛知県豊田市小原町上平441-1 | | |
| ③代表者氏名 (役職・氏名) | 会長 加知 國一 | | |
| ④電話番号 | (0565) 65-2540 | ⑤FAX番号 | (0565) 66-0015 |
| ⑥メールアドレス | obara@aichiskr.or.jp | | |
| ⑦担当者 (担当部署名) | 川島 敬朗 (小原商工会 経営指導員) | | |
| ⑧担当者連絡先 (電話番号) | (0565) 65-2540 | ⑨(FAX番号) | (0565) 66-0015 |
| ⑩(メールアドレス) | obara@aichiskr.or.jp | | |
| ⑪設立年月日 | 昭和36年10月13日 | ⑫資本の額 又は出資金の額 | — |
| ⑬出資者 又は組合員の数 | 206名(組合員) | | |

2. 活性化計画（第1期）の評価

1 桜バスでお買物支援事業

| | |
|------------------|--|
| ①事業名 | 桜バスを使って小原で買い物をしよう |
| ②事業実施 予定時期 | 平成23年度より平成25年度までの3年間 |
| ③事業概要 | 市の施策である地区民の生活交通「桜バス」を利用して地区内の商店等で買い物やサービスの利用を積極的に行ってもらうための事業。桜バスを利用して、小原地区内の対象の店で2千円以上の買い物をすると、バスの往復運賃200円を商工会がキャッシュバック。 |
| ④対応する 社会課題 | 少子高齢化 独居高齢者対策 交通弱者への買い物支援 |
| ⑤課題・背景と 事業の目的 | 小原地区に住んでいる住民でも、地区外で買い物をする人が多くなっているが、そのほとんどは自家用車による移動であり、自動車を運転することができない高齢者にとっては、日常の買い物をするのも不便になっている。そこで、おばら桜バスを利用して地区内の商店で買い物をする人に特典を与え、地区内で積極的に買い物やサービスを利用してもらうことを目的とした。 |
| ⑥ターゲット・ コンセプト | 小原地区内の高齢者 「お買い物はなじみの地元商店で」 |
| ⑦事業費に ついて | 23年度 案内チラシ印刷代 80,000円 3000枚 チケット印刷代 40,000円 3000枚 運賃キャッシュバック 900円 9名 24年度 案内チラシ印刷代 80,000円 3000枚 チケット印刷代 40,000円 3000枚 運賃キャッシュバック 8,300円 86名 25年度 運賃キャッシュバック 38,400円 143名 |
| ⑧評価指標 | 桜バスを利用した、地区内での買い物客数 |
| ⑨推進体制 ・役割分担 | おばら桜バス：利用者にチケットを配布 商店：店舗で上記のチケットを受け取り、バス料金をキャッシュバック 商工会：キャッシュバック分の半額費用補助 |
| ⑩地域の動き | 独居高齢者対策 |

計画期間中の成果

| | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|--------|-------------|--------------|---------------|
| 事業内容 | 割引チケット事業の運用 | 割引チケット事業の改善策 | 割引チケット事業の改善策 |
| 関連事業 | — | — | — |
| 目標値 | 425名 | 425名 | 450名 |
| 成果進捗状況 | 買い物客数 9人 | 買い物客数 86人 | 買い物客数 143人 |

【桜バスでお買物支援事業の考察】

初年度は目標値を大きく下回り、2年目、3年目とも目標値を下回った。そのため、当初は2千円以上の買い物利用で往復運賃200円のキャッシュバックを、2年目以降は片道千円以上の買い物利用で片道運賃100円のキャッシュバックに改善した。利用者は年々増加したものの、目標値に達しなかった原因として、バス予約の方法や往復利用の際の不便性、買い物金額の設定、時間外での利用不可などに問題があると思われる。

今後も継続していく予定であるが、大幅な利用者の増加を望めるとは考えにくく、一定の効果はあるものの交通弱者への買い物支援対策としては弱いのではと思われる。

目的は買い物弱者、交通弱者対策だったが、飲酒運転防止策に繋がった。

資料：おばら桜バスの概要

- | | |
|----------|---|
| 【運行の仕組み】 | ・予約制（フルデマンド方式） |
| 【運行事業者】 | ・豊栄・小原・豊田中央共同企業体 |
| 【運行車両】 | ・中型タクシー車両（セダンタイプ）2台 |
| 【運行日・時間】 | ・運行日：火・水・木・金曜日 ・運行時間：午前6：00～午後7：00 |
| 【運賃】 | ・大人（中学生以上）1人（1乗車）100円 ・こども（小学生以下）1人（1乗車）50円 ・障がい者等 1人（1乗車）50円 |
| 【停留所】 | ・小原地区内に146か所 |



2 一店逸品事業

| | |
|------------------|---|
| ①事業名 | 一店逸品事業 |
| ②事業実施 予定時期 | 平成 23 年度より平成 26 年度までの 3 年間 |
| ③事業概要 | 各店で目玉となりうる商品、特産品、サービスを選定し店の個性に磨きをかけ、観光客だけでなく地域住民への PR を主目的として、普段の生活の中で活用してもらえるような小原商店パンフレット（チラシ）を作成し配付を行った。 逸品店として認定された店舗には、一店逸品ステッカーを配布するとともに、WEBサイトを構築し地区内の商店の情報発信を図った。 |
| ④対応する 社会課題 | 地域資源・農商工連携 |
| ⑤課題・背景と 事業の目的 | 小原地区に散在している商店は、お店の特色や、何を一番の売りにしているのか分かりづらく、地域住民に対するアピールも十分とは言えない、そこで、各店で誇れる商品、特産品、サービスに磨きをかけ、店の個性を前面に出すとともに、観光客だけでなく地域住民にも親しんでもらえる店づくりを目的とした。 |
| ⑥ターゲット・ コンセプト | 観光客 地域住民にも小原の商業を再認識してもらう |
| ⑦事業費に ついて | 23 年度 取材費・原稿作成費 506,000 円 取材・原稿作成デザイン料 印刷製本費 244,000 円 印刷製本費 ステッカー作成費 20,000 円 ステッカー作成費 24 年度 取材費・原稿作成費 720,000 円 取材・原稿作成デザイン料 印刷製本費 300,000 円 印刷製本費 WEBサイト構築費 130,000 円 WEBサイト制作費 25 年度 取材費・原稿作成費 210,000 円 取材・原稿作成デザイン料 印刷製本費 150,000 円 印刷製本費 |
| ⑧評価指標 | 逸品店数 |
| ⑨推進体制 ・役割分担 | 協賛店：逸品づくり 商工会：商業活性化委員会により対象店舗の品評、アドバイス |
| ⑩地域の動き | 小原地区の自治区長会を通じ地区全戸への配布。 毎年 11 月に行われる四季桜まつりで、観光客を対象に PR。 |

計画期間の成果

| | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 |
|--------|---|---|--|
| 事業内容 | 逸品づくり、逸品磨き 協賛店第 1 期募集 PR パンフレット作成、配付 | 協賛店第 2 期募集 その他は 1 年目に準ずる WEBサイト構築費 | 協賛店第 3 期募集 その他は 1 年目に準ずる WEBサイト更新 |
| 関連事業 | 特産品づくり | 特産品づくり | 特産品づくり |
| 成果進捗状況 | 逸品認定店 20 店 パンフレット配付世帯数 約 1,200 世帯 配布店舗数 28 店 約 3000 部 公共施設配布 300 部 | 逸品認定店 36 店 パンフレット配付世帯数 約 1,200 世帯 配布店舗数 40 店 約 1000 部 公共施設配布 200 部 | 逸品認定店 36 店 配布店舗数 40 店 約 1300 部 公共施設配布 100 部 |

【一店逸品事業の考察】

パンフレットを3年間にわたり作成し配布した。その中で、アンケート調査を行った結果、「パンフレットがあると地元を見直すことができるので良い」、「小原に住んでいるがあまり知らない所もあったので興味深い」等の好意的意見も多くあり、地区の住民にも認識してもらい地区内店舗の周知に努めることができた。また、1年目はパンフレットにしたが、簡単に廃棄されてしまうケースがあったため、2年目以降は、地区内の生活情報を記載したカレンダー方式のパンフレットを作成した。

3 特産品づくり事業

| | |
|-------------------|---|
| ① 事業名 | 特産品づくり |
| ② 事業実施 予定時期 | 平成 23 年度より平成 25 年度までの 3 年間 |
| ③ 事業概要 | 和紙、豆腐、たまご、といった特産品は人気があるが、そこに新たなラインナップを加え特産品の充実を図るため、地区内の農産物等を有効利用し特産品化したもので、廃棄されている老鶏肉の有効利用として、鶏なべ・鶏丼と鶏ソーセージの商品化を図った。 |
| ④ 対応する 社会課題 | 地域資源・農商工連携 地区内の農作物等を有効利用・商品化 |
| ⑤ 事業の必要性 ・事業目的 | 和紙、豆腐、たまご、きのこなどの特産品は人気があるが、まだまだ特産品の数としては不足しており、手軽に購入してもらえようなお土産が少ない。 |
| ⑥ ターゲット・ コンセプト | 観光客 地域住民 |
| ⑦ 事業費に ついて | 23 年度 賄材料費 85,826 円 試食費 3,000 円 試作費 82,826 円 消耗品費 30,000 円 のぼり旗作成費 30,000 円 24 年度 25 年度 なし |

| | |
|-----------------|---|
| ⑧ 評価指標 | 小原地区内の取り扱い店舗数 |
| ⑨ 推進体制 ・役割分担 | 協賛店：該当店は推進委員として開発を担当 商工会：バックアップと協賛飲食店を募る |
| ⑩ 地域の動き | 一店逸品事業のパンフレット掲載による PR 毎年 11 月に行われる四季桜まつりで、観光客を対象に PR |

計画期間中の成果

| | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 |
|--------|-----------------------------------|---------------------|---------------------|
| 事業内容 | 試作品の研究開発 味等の完成度を上げる | 完成品の販売 PR 強化 | 完成品の販売 PR 強化 |
| 関連事業 | 一店逸品事業 | 一店逸品事業 | 一店逸品事業 |
| 成果進捗状況 | チキンフランク・チョリ ソー、鶏丼・鶏鍋の試作 品開発 | 四季桜まつり、夏まつり にて販売 | 四季桜まつり、夏まつり にて販売 |

【特産品づくり事業の考察】

鶏なべ・鶏丼は、「万人受けしない」、「作り置き後の解凍後に味が落ちる」などの意見があり、商品化に至らなかった。

チキンソーセージ『鶏ソー』は、地区内での取扱い店舗がなく、受注生産の商品となった。販売は、小原夏まつりや四季桜まつり期間中の週末のみの販売で、完売していたため、3年間で観光客等にも評価を得ることが出来た。



3. 小原地区の概況と課題

1) 小原地区と小原地区の商業の概況

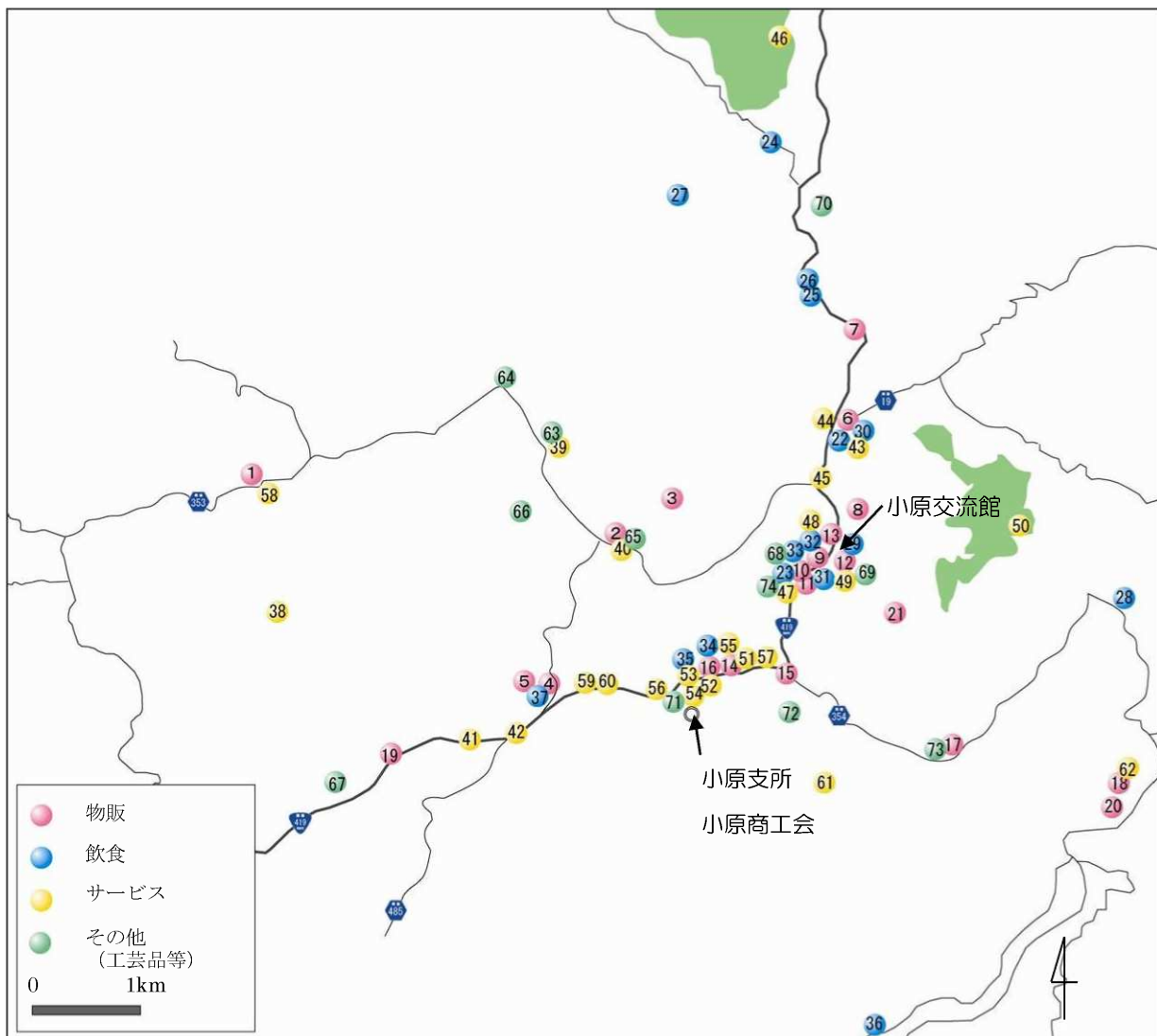
小原地区は豊田市の北部に位置しており、岐阜県恵那市などとも隣接している地域でもある。小原和紙や四季桜が有名であり、四季桜まつりには毎年 15 万人以上の観光客が訪れており平成 25 年度は約 14 万人が訪れた。

しかし、地区内の人口は減少傾向にあり平成 25 年 10 月時点では 4,000 人、1,523 世帯となっている。また、高齢化率は非常に高く約 35%あり、豊田市全体の 13%と比較すると約 2 倍となっている。

平成 25 年度時点の商工会の商業・サービス業の会員数は 75 で、そのうちの 26.6%が物販、18.7%が飲食、38.7%がサービス業、16%がその他（工芸品等）となっているが、観光客をメインターゲットとした業種と、地域住民をメインターゲットとした業種があり、地域の人口も少なく観光中心の産業となっているといえる。

また、店舗への来店はほぼ自家用車による来店であり、自家用車を利用できない高齢者等の買い物弱者が増加していて支援対策が必要かと思われる。

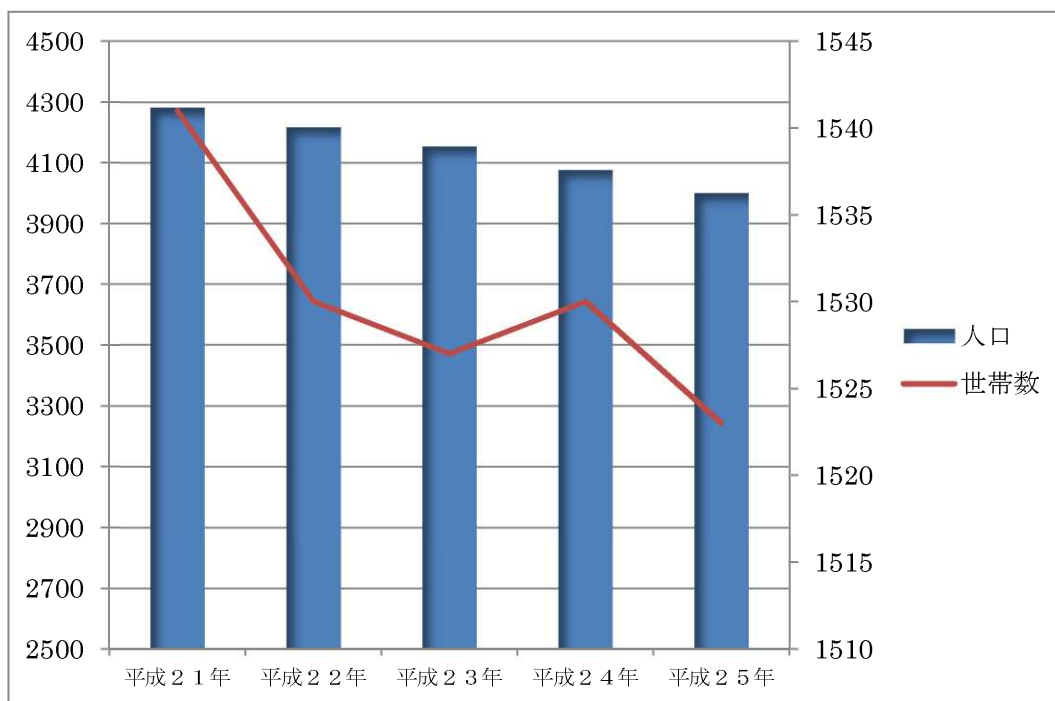
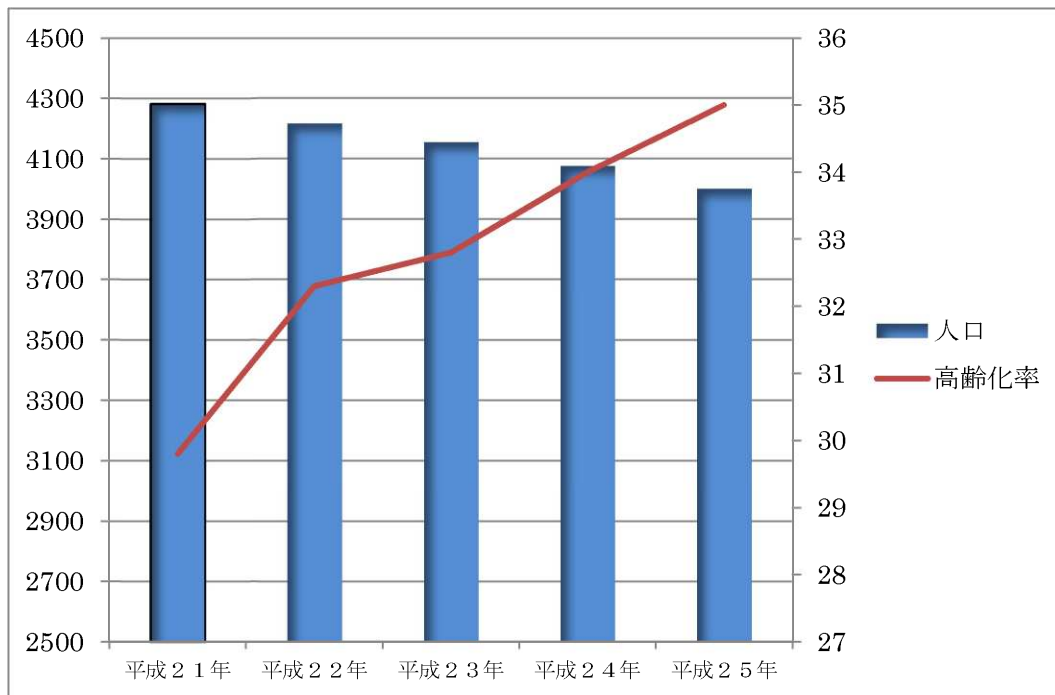
①小原地区の商店の分布



小売・飲食・サービス業等 組合員数

| 分 類 | 事業所名 | | | 会員数 | 構成比% |
|-------|----------------|----------------|---------------------|-----|------|
| 物販 | 港 屋 | 丸一商店 | ヤマニ石油(株) | 20 | 26.6 |
| | 小沢屋 | 沢田屋商店 | J-c o m | | |
| | 小川商店 | 産直のん野店 | 大林ふとん店 | | |
| | 四季桜の里 | たまご村 | ムトウ電工社 | | |
| | 大正屋商店 | 鈴木牛乳販売店 | (有)勝上商店 | | |
| | (有)柴田豆腐店 | (株)愛農流通センター | (株)高岡ヤンマー | | |
| | ファミリーマートFC | 大草わたや | | | |
| 飲食業 | きのこ | アルボ | | 14 | 18.7 |
| | 紙の花 | カラオケささゆり | | | |
| | 大福魚苑 | (有)ちとせ | | | |
| | 宝仙奈 | 楽 園 | | | |
| | 樟 会 | ペンぎん食堂 | | | |
| | みずの食堂 | 喫茶おばら | | | |
| | café bar サンキュー | | | | |
| つゝみ寿司 | | | | | |
| サービス業 | クミ美容室 | 小原タクシー | 永太郎自動車 | 29 | 38.7 |
| | 尾形写真館 | 西村自然農園 | 鈴木接骨院 | | |
| | 水野美容室 | 美嶋屋 | Suzuki Body Factory | | |
| | Big Smile | 増岡理容 | スズキ広務店 | | |
| | 増岡理容 | 小原カントリークラブ | BARBER増岡 | | |
| | 小原旅行(株) | パインズゴルフクラブ | 大平マッサージ鍼灸接骨院 | | |
| | かとう美容室 | 品 野 屋 | 竹内モータース | | |
| | (有)山内自動車 | カットサロンオオクサ | 今井モータース | | |
| | (有)福祉企画・チーム能見 | 春日井美容院 | (株)土井自動車 | | |
| | (株)平畑温泉観光サービス | (株)レンタルリースTAKE | | | |
| その他 | 柳瀬紙苑 | 権現坂工房 | | 12 | 16 |
| | 磨弥陶房 | 小 原 窯 | | | |
| | 道慈窯 | 和紙鈴木峰雄工房 | | | |
| | 山内一生工房 | 青木風来 | | | |
| | 笹平工房 | 画廊美術村 | | | |
| | 小次郎工房 | 和紙のふるさと運営協議会 | | | |
| 合 計 | | | 75 | 100 | |

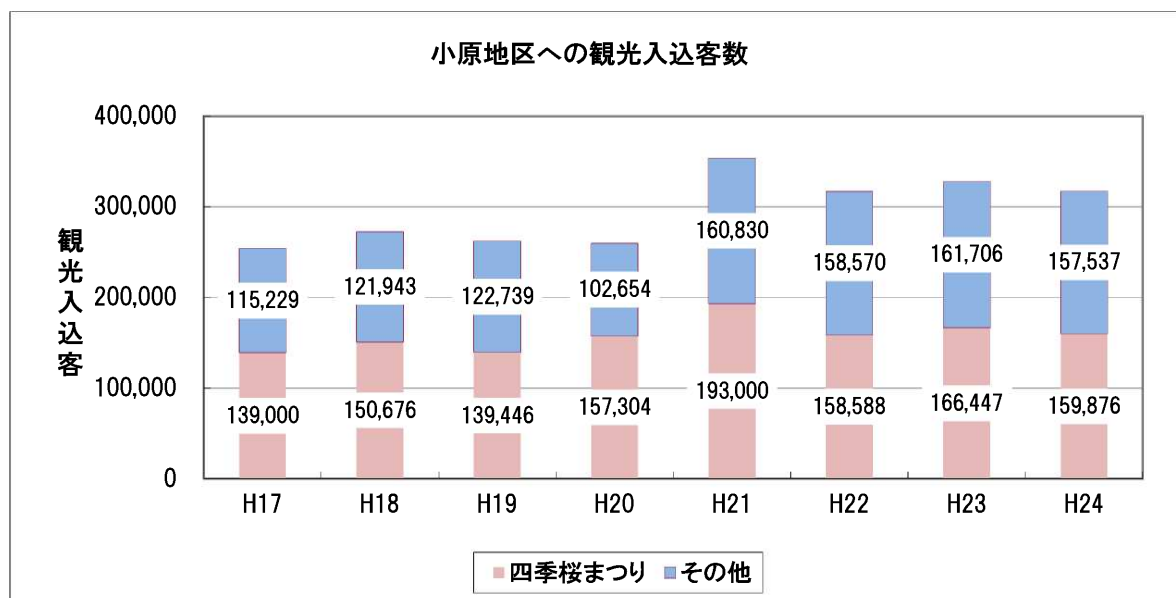
②小原地区の人口、高齢化率の推移



人口が年々減少していて、高齢化率も年々上昇して30年後の高齢化率は約50%になると予想されている。

資料 豊田市の人口（H21～H25は10月1日時点）

③観光入込客数の状況（出典：愛知県観光入込客統計調査）



観光入込客数は、平成17年からの横ばい傾向から平成21年に大幅に増加した。これは、四季桜が新聞等のメディアに取り上げられ多くの反響があったことが要因であり、その後はやや減少したものの、再び横ばい傾向となっている。

2) 小原地区の商業の主な課題

- ①商店は地区全体に点在しており、商店街のような商業集積地区はない
- ②人口は年々減少していて、地域住民相手の商業を継続していくことが今後困難となる
- ③四季桜まつりがある11月頃は集客が見込めるが、年間を通じて客を呼べるものがない

3) 小原地区の商業に対する住民、観光客のニーズなど

①一店逸品事業アンケート実施概要

目 的：一店逸品事業で作成した冊子に、小原地区の商業・商店に対する印象を把握するためにアンケート用紙を巻末に掲載し実施した。

実施日時：平成24年1月中旬～4月下旬

実施方法：一店逸品冊子にアンケートを掲載し、回答者には抽選で粗品を進呈した。

回収結果：47票 地区内応募27名 地区外応募20名

| 年 齢 | |
|------|----|
| 20歳下 | 3 |
| 20歳代 | 2 |
| 30歳代 | 11 |
| 40歳代 | 6 |
| 50歳代 | 12 |
| 60歳代 | 9 |
| 70歳代 | 4 |

| 職 業 | |
|-----|----|
| 会社員 | 22 |
| 主婦 | 16 |
| 学生 | 3 |
| 自営業 | 1 |
| その他 | 5 |

質 問 ①本誌をどこで知りましたか。

- ・店で20名 ・自治区配布14名 ・知人より8名 ・その他5名

②逸品のうち気に入った逸品と店舗はどこでしたか 複数回答あり

- ・柴田豆腐店13名 ・たまご村12名 ・喫茶アルポ10名 ・品野屋 5名
- ・みずの食堂5名 ・増岡理容4名 他

③ ②で回答した逸品・店舗を選んだ理由を教えてください

- ・小原地区に行くたびに購入している
- ・おいしかった

④ 冊子をご覧になって小原地区にこんなものがあるとよい、ここがよかったなどの感想を教えてください

- ・年間を通しての小原の名産・名物があるといいですね！観光客が年中来れるといいと思う。
- ・年間を通して販売できる特産品があるといい
- ・小原では自然薯を作っている人が多いので、自然薯の料理を名物にする店があってもいいと思います。
- ・“食”だけでなく、生活全般の逸品が紹介されていて良かったと思います。
- ・サービスチケット等があれば初めての人も利用しやすい等の意見があり、小原地区での年間を通しての名物名産を望んでいる意見が多くあった。

②小原四季桜まつり来場者アンケート実施概要

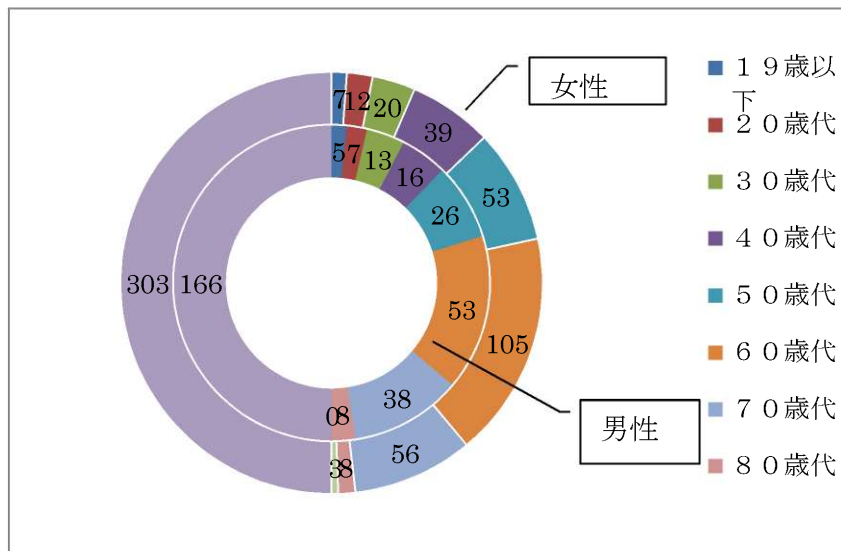
目 的：どのような年齢層等が小原地区へ来場するかを把握するため

実施日時：平成 25 年 11 月下旬

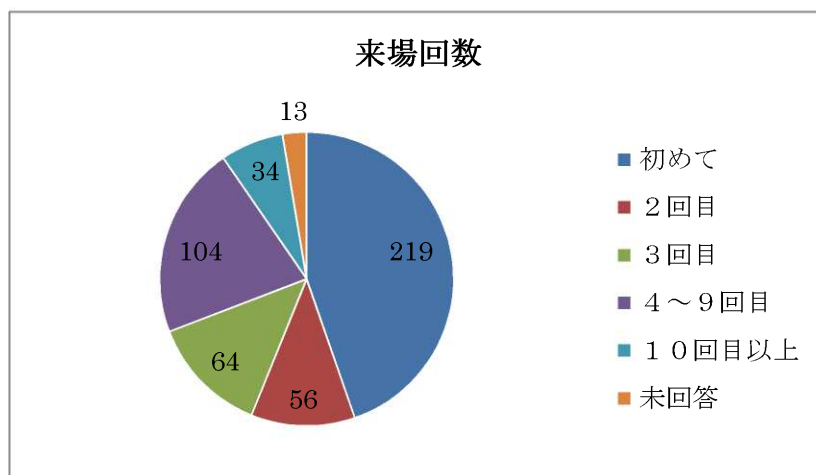
実施方法：四季桜まつり会場・店頭買い物客（観光客）に声かけして、その場で記入（または聞き取り回答）

回収結果：490 票

| 年 齢 | 男 | 女 |
|-------|-----|-----|
| 19歳以下 | 5 | 7 |
| 20歳代 | 7 | 12 |
| 30歳代 | 13 | 20 |
| 40歳代 | 16 | 39 |
| 50歳代 | 26 | 53 |
| 60歳代 | 53 | 105 |
| 70歳代 | 38 | 56 |
| 80歳代 | 8 | 8 |
| 未記入 | 0 | 3 |
| | 166 | 303 |



| | 来場回数 |
|--------|------|
| 初めて | 219 |
| 2回目 | 56 |
| 3回目 | 64 |
| 4～9回目 | 104 |
| 10回目以上 | 34 |
| 未回答 | 13 |
| 合 計 | 490 |



アンケート結果

- ・60歳、70歳代の来場者が約53%となり、来場回数も年に2回以上小原地区を訪れている方が約52%いることから、四季桜まつりの来場者はシニア層を中心にリピーターも多く来場しているのがわかった。

4. 活性化計画終了後による今後の計画策定

平成23年度から3年間にわたり、商業活性化計画により事業を行った。小原地区では事業者が少なく、商業者も小規模零細で高齢の経営者であることが多いため、小規模零細事業者向けに今後なんらかの商業施策を行っても大きな効果があるとは考えにくい。

また、地域問題となっている買い物弱者支援も、商工会で販売車両等を購入し買い物弱者支援を行うといった事業は、実情に合う計画を立てる必要性や、事業規模の観点からも難しいと思われる。

また、観光客向けの土産物として菓子等を創作しようと計画しても、和菓子洋菓子店が地区内にないため、独自の開発はできず、外部地区への委託となってしまうのが現状である。

このように地域小売店が限られている地域で、幅広い客層を取り込んだ活性化計画を立てることは難しく、限られている経営資源の集中を図り、ターゲットを絞り込み計画を策定する必要があると思われる。

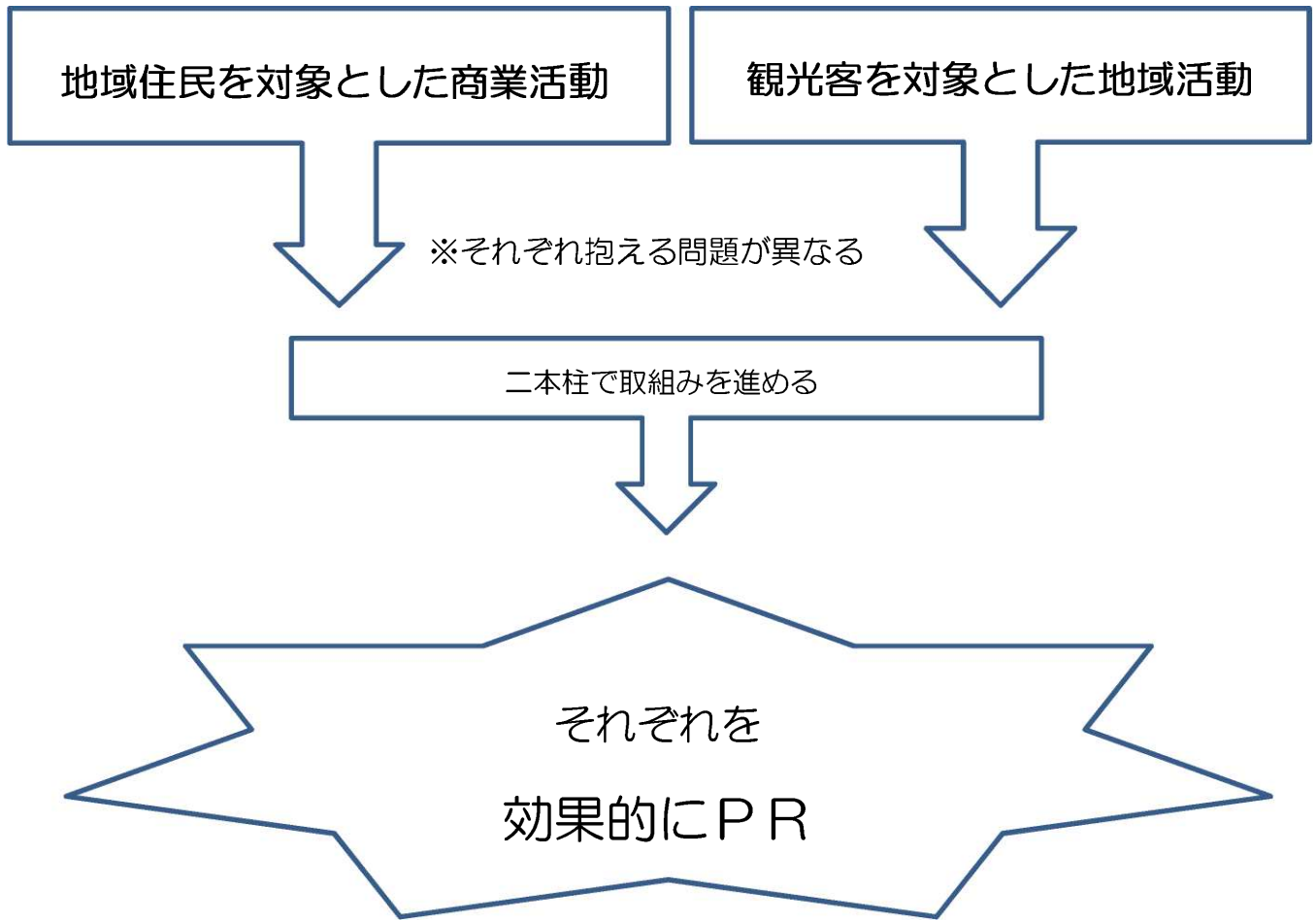
しかし、小原地区には、観光資源である四季桜があり、アンケートからも四季桜まつりの来場者は高齢者層を中心にリピーターも多く来場する。他世代と比較しても、高齢者層は貯蓄が多く、消費支出も高い。今後も総人口に占める高齢者層の割合が増大するのは確実であるため、高齢者層をターゲットに、できるだけ費用をかけずに商品開発を行い、高齢者層市場領域の商品や、他地域にないような独自のものを開発していくことより、今後の活性化計画としての検討を行っていくものである。

なお、高齢者層は、少し足を伸ばせば来ることができる豊かな自然、昔のままの自然や里山等の田舎風の雰囲気求めて来訪するため、徹底して田舎色を打ち出した商品づくりや販売方法を今後検討していくものである。

5. 豊田市役所小原支所及び小原観光協会との連携による事業推進体制

豊田市役所小原支所より、今後の10年間のまちづくりの方向性を定めることを目的とした小原地区まちづくり計画「おばらみらいプラン」が策定された。これは地域資源を最大限に活用して、交流人口を増加させ地域経済の循環につなげて、地域の魅力づくりと活性化を目指すという計画であり、この計画と今回の商業活性化計画と事業摺合せを図るとともに、小原観光協会とも事業連携を図り、小原地区の観光を戦略的にPRすることで、イメージアップと観光客の増加を図り、地域経済の振興につなげて小原地区の認知度は高めることを検討していくものである。

6. 活性化の基本方針



7. 事業計画及び予算計画

| ① 事業名 | 地域資源開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|----------|--|----|----|----|-----|--------|----------|-----|-----------------|----------|-----|-------------------|----------|------|------------|----------|--|--|--|
| ② 事業実施 予定時期 | 平成26年度より3年間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 事業概要 | 小原地区の地域資源である農産物等を活用することに、あらためて着目し地域資源を活用した商品開発、地元産業創出、販売促進を図ることにより、小原ならではの名産品を生み出す新たな地元産業創出を図る。 また、手頃な値段でお土産として購入してもらえる商品の開発を図り、地域資源を活用することにより地域活性化を図っていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 対応する 社会課題 | 地域資源・農商工連携 地区内の農作物等を有効利用・商品化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 事業の必要性 ・事業目的 | 地域資源を発掘し活用することにより商品の開発を行い、観光客のみならず地域住民にも購入を促すことを目的としている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ ターゲット・ コンセプト | 観光客(高齢者層向け) が気軽に消費してもらえる商品 高齢者層向けの体に良い商品 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ 事業費に ついて | 初年度 <u>120,000 円</u> 概算内訳 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">内容</th> <th style="width: 40%;">内訳</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試作費</td> <td>試作原材料費</td> <td>20,000 円</td> </tr> <tr> <td>消耗品</td> <td>試作消耗品費 ガラス瓶他</td> <td>30,000 円</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>アルバイト代 試作品の採取等</td> <td>20,000 円</td> </tr> <tr> <td>講師謝金</td> <td>地域資源活用研究謝金</td> <td>50,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・2年目以降は完成品の販売を想定している。</p> | | | 内容 | 内訳 | 金額 | 試作費 | 試作原材料費 | 20,000 円 | 消耗品 | 試作消耗品費 ガラス瓶他 | 30,000 円 | 人件費 | アルバイト代 試作品の採取等 | 20,000 円 | 講師謝金 | 地域資源活用研究謝金 | 50,000 円 | | | |
| 内容 | 内訳 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試作費 | 試作原材料費 | 20,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 消耗品 | 試作消耗品費 ガラス瓶他 | 30,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人件費 | アルバイト代 試作品の採取等 | 20,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講師謝金 | 地域資源活用研究謝金 | 50,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------|---|
| ⑧ 評価指標 | 小原地区内の取り扱い店舗数 |
| ⑨ 推進体制 ・役割分担 | 協賛店：該当店は推進委員として開発を担当 商工会：バックアップと協賛飲食店を募る |
| ⑩ 地域の動き | 毎年11月に行われる四季桜まつりで、観光客を対象にPR |
| ⑪ その他 | ワークショップを26年度以降も引き続き開催し、具体的な商品の検討を図り、試飲等も数回行っていく予定である。 |

計画期間の事業スケジュール

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|----------|-----------------------|----------------------|----------------------|
| 事業内容 | 試作品の研究 地域資源活用研究会開催 | 完成品の販売 | 完成品の販売 |
| 関連事業 | | | |
| 成果目標進捗状況 | 試作品開発 その他取組み品目の研究 | 取扱店舗数 地区内店舗の10%程度 | 取扱店舗数 地区内店舗の20%程度 |

具体案1

小原地区の山間部にはマタタビが豊富に自生している。マタタビは、疲れた時に実を食すると「再び旅ができる」からとも言われ、ほぼ全国に分布するつる性の植物で秋に3~4cmの実をつける。マタタビの葉っぱ、ツル（枝）、そして実は疲労回復や滋養強壮にいいということで昔から人気がある木の実である。

初夏の頃に伸びたツル（枝）は、乾燥させて煎じて飲んだり、浴槽に入れて疲労回復の薬草として利用されていて、初夏に咲く可憐な白い花が終わると実をつけるがこの実が、重宝な実でいろんな目的で利用される。マタタビの実には、ドングリ型の正常な実と、寄生虫が寄生してカボチャ型に変形する虫エイ果と呼ばれる2種類があり、カボチャ型の実をゆでて乾燥させたものは木天蓼（もくてんりょう）と呼ばれる漢方薬として有名である。ドングリ型の実は塩漬けや味噌漬けで食べたりカボチャ型の実は果実酒（マタタビ酒）となったり、乾燥させてマタタビ茶に利用されるため、原材料費がほとんどかからないマタタビを利用して、上記のような商品等の開発を検討するものである。



具体案2

現在、愛知県近郊では神事に使用する榊（さかき）が不足していて、中国などの輸入物に頼るしかないのが現状である。だが輸入物は、「日持ちしない」、「大きいものがない」、「色が薄い」など、神事等に使用する際には不向きで、質の良いものは手に入れるのが難しく困っているようである。

小原地区には、榊が自生している場所もあり、榊を育てている農家もあるが小規模であり地区近郊でしか取引をしていない。そこで、地区内の農植物の有効利用を図るため、榊栽培の育成やその販路開拓方法を研究し、新たな地元産業の創出を検討するものである。



| ①事業名 | 冊子作成による事業者のPR | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|----------|--|----|----|----|--------------------------------|------------------------|----------|-----------------|-------------------|---------|-----|----------------|---------|-----|------------------|---------|
| ②事業実施 予定時期 | 平成26年度より3年間 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③事業概要 | 小原地区では毎年11月に四季桜まつりが開催される。四季桜まつりに合わせ、飲食店を中心にスタンプラリーを行う。スタンプラリーの台紙には、店舗情報を掲載し、周知に努めるとともに「食めぐり」を実施して、飲食店等での消費拡大を図る。また、各店舗や各名所にスタンプと説明看板を置き、完走したら農産物を中心とした景品を贈呈する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④対応する 社会課題 | 地域資源・農商工連携 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤事業の必要性 ・事業目的 | 小原地区に散在している店舗の紹介と、観光客だけでなく地域住民にもあらためて店舗の周知を図ることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ターゲット・ コンセプト | <ul style="list-style-type: none"> 観光客及び地域住民 外側へのアピールだけでなく、地域の住民にも小原の商業を再認識してもらう | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦事業費に ついて | 初年度 260,000円 概算内訳 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">内容</th> <th style="width: 30%;">内訳</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>印刷代 四季桜まつり等において 観光客に配布予定</td> <td>50円×3000部 スタンプラリー台紙</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td>消耗品 ラリー用説明看板</td> <td>30,000円 説明看板作成</td> <td>30,000円</td> </tr> <tr> <td>景品代</td> <td>70,000円 景品代</td> <td>70,000円</td> </tr> <tr> <td>郵送費</td> <td>10,000円 景品郵送費</td> <td>10,000円</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 2年目以降は店舗を変更することを想定。 | | | 内容 | 内訳 | 金額 | 印刷代 四季桜まつり等において 観光客に配布予定 | 50円×3000部 スタンプラリー台紙 | 150,000円 | 消耗品 ラリー用説明看板 | 30,000円 説明看板作成 | 30,000円 | 景品代 | 70,000円 景品代 | 70,000円 | 郵送費 | 10,000円 景品郵送費 | 10,000円 |
| 内容 | 内訳 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 印刷代 四季桜まつり等において 観光客に配布予定 | 50円×3000部 スタンプラリー台紙 | 150,000円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 消耗品 ラリー用説明看板 | 30,000円 説明看板作成 | 30,000円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 景品代 | 70,000円 景品代 | 70,000円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 郵送費 | 10,000円 景品郵送費 | 10,000円 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------------|-----------------------------|
| ⑧評価指標 | スタンプラリー台紙の応募枚数 |
| ⑨推進体制 ・役割分担 | 商工会：バックアップと協賛飲食店を募る |
| ⑩地域の動き | 毎年11月に行われる四季桜まつりで、観光客を対象にPR |
| ⑪その他 | ワークショップを26年度以降も引き続き開催 |

計画期間の事業スケジュール

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|----------|------------|------------|--------------|
| 事業内容 | 店舗等紹介の台紙作成 | 店舗等紹介の台紙作成 | 店舗等紹介の台紙作成 |
| 関連事業 | | | |
| 成果目標進捗状況 | | 店舗変更 | 店舗変更 PR強化 |

| ①事業名 | 商業者向けのおもてなし研修会 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|----------|--|----|----|----|------|--------------------|----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ②事業実施 予定時期 | 平成26年度より3年間 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③事業概要 | 小原地区では毎年11月に四季桜まつりが開催される。小原地区のほとんどの商業者は、年間売上のうち11月が占める割合が高い。商業者向けに、観光客等へのおもてなし研修会を定期的に行うことにより、観光客が多数訪れ、各店舗で売上が集中する11月期の更なる利益向上を目指すものである。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④対応する 社会課題 | 商業活性化 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤事業の必要性 ・事業目的 | 販売促進 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ターゲット・ コンセプト | 観光客や地域住民を対象に感じの良いおもてなしにより、店舗を訪れるリピーター数を増やす。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦事業費に ついて | 初年度 <u>150,000円</u> 概算内訳 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">内容</th> <th style="width: 33%;">内訳</th> <th style="width: 33%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講師謝金</td> <td>150,000円 3万円×5回</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> | | | 内容 | 内訳 | 金額 | 講師謝金 | 150,000円 3万円×5回 | 150,000円 | | | | | | | | | |
| 内容 | 内訳 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講師謝金 | 150,000円 3万円×5回 | 150,000円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------------|-----------------------|
| ⑧評価指標 | アンケートによる顧客満足調査 |
| ⑨推進体制 ・役割分担 | 商工会：バックアップと研修会参加店舗を募る |
| ⑩地域の動き | |
| ⑪その他 | ワークショップを26年度以降も引き続き開催 |

計画期間の事業スケジュール

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 事業内容 | 研修会開催 | 研修会開催 | 研修会開催 |
| 関連事業 | | | |
| 成果目標進捗状況 | 研修会参加者数 | 研修会参加者数 | 研修会参加者数 |

| ①事業名 | 携帯端末を利用した事業者等の情報発信 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|----------|--|----|----|----|-----|-----------------------------------|----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ②事業実施 予定時期 | 平成26年度より3年間 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③事業概要 | 商工会では、携帯等に小原地区の情報を発信する、地域メルマガである「小原メール」を地区住民を中心に約300名程度の発信を行っている。「小原メール」を利用し、地域情報だけでなく、商店等の情報を定期的に発信し、商店等の情報の積極的な発信を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④対応する 社会課題 | 商業活性化 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤事業の必要性 ・事業目的 | 地域活性化 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ターゲット・ コンセプト | 地域住民 地域の住民にも小原地区の商業を再認識してもらう | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦事業費に ついて | 初年度 <u>150,000円</u> 概算内訳 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">内容</th> <th style="width: 33%;">内訳</th> <th style="width: 33%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>報償費</td> <td>150,000 地域メルマガの容量等 を増やす修正作業</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> | | | 内容 | 内訳 | 金額 | 報償費 | 150,000 地域メルマガの容量等 を増やす修正作業 | 150,000円 | | | | | | | | | |
| 内容 | 内訳 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 報償費 | 150,000 地域メルマガの容量等 を増やす修正作業 | 150,000円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------------|-----------------------|
| ⑧評価指標 | 地域メルマガの登録者数 |
| ⑨推進体制 ・役割分担 | 商工会：バックアップと情報提供店舗を募る |
| ⑩地域の動き | |
| ⑪その他 | ワークショップを26年度以降も引き続き開催 |

計画期間の事業スケジュール

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|----------|-------------|-------------|-------------|
| 事業内容 | メルマガの情報発信 | メルマガの情報発信 | メルマガの情報発信 |
| 関連事業 | | | |
| 成果目標進捗状況 | 地域メルマガの登録者数 | 地域メルマガの登録者数 | 地域メルマガの登録者数 |